２０２６年１１月２９日（日）　　日本基督教団　大宮教会

待降節(アドベント)第１主日

降誕前節第４主日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19～20）

朝第１礼拝 9:00～10:00
朝第２礼拝 10:30～11:45

〈神の招き〉
前奏　①「起きよ」と呼ぶ声　バッハ
②いざ来ませ 異邦人の救い主よ　バッハ
招きの詞　エレミヤ書３３：１４～１６
交読詩編　２５：１～１４
讃美歌　２３１
〈神の言葉〉
聖書　出エジプト記１４：１３～１４
（旧約　聖書協会共同訳107頁）
ルカによる福音書１：５～２５
（新約　聖書協会共同訳 98頁）
祈祷
讃美歌　２４２（1）
説教　「ザカリアとエリサベト」
熊江秀一牧師
祈祷
黙想
讃美歌　２２６
〈神への応答〉
使徒信条
献金
主の祈り
宣教報告②
頌栄　２８
派遣と祝福
後奏　①いざ来ませ 異邦人の救い主　バッハ
②いざ来ませ 異邦人の救い主よ　ブクステフーデ
宣教報告①

夕礼拝 18:00～19:00
〈神の招き〉
前奏　いざ来ませ 異邦人の救い主よ (3)　ツァッハウ
招きの詞　エレミヤ書３３：１４～１６
交読詩編　２５：１～１４
讃美歌　１２０
〈神の言葉〉
聖書　出エジプト記８：１２～１５
（旧約　聖書協会共同訳97頁）
ルカによる福音書１１：１４～２３
（新約　聖書協会共同訳126頁）
祈祷
讃美歌　４４３
説教　「神の国はすでに来ている」
佐藤潤伝道師
祈祷
黙想
讃美歌　５０４
〈神への応答〉
使徒信条
献金
主の祈り
宣教報告
頌栄　２６
派遣と祝福
後奏　いざ来ませ 異邦人の救い主よ (1)　ツァッハウ

今週の御言葉

彼は主の前に偉大な人になり、ぶどう酒も麦の酒も飲まず、すでに母の胎にいるときから聖霊に満たされ、イスラエルの多くの子らをその神である主に立ち帰らせる。（ルカによる福音書１：１５～１６）

次週の礼拝（１２月６日）アドベント第２主日・聖餐式

① ９：００　② １０：３０
説教「おめでとう、恵まれた方」
熊江秀一牧師
イザヤ書９：１～６、
ルカによる福音書１：２６～３８
交読詩編１９：８～１１
讃美歌２４２(1，2)、５６、１７５、８１、２８

夕 １８：００
説教「幸いなのは」
佐藤潤伝道師
詩編１１９：１～８、
ルカによる福音書１１：２４～２８
交読詩編１９：８～１１
讃美歌１２２、２４１、５７２、８１、２５

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第１礼拝、②は朝第２礼拝、夕は夕礼拝。

■<u>今週の祈祷課題</u>■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2．熊本地震と東日本大震災、能登半島地震、各地の豪雨被害者の為に
3．アドベント（待降節）の歩みの為に　4．長老会の為に　5．牧師・伝道師の為に
6．関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の為に　7．世界にキリストの平和があるように
8．病気の兄姉の為に

＊関東教区お祈りカレンダー　岩槻教会　　春日部教会　　越谷教会

◇先週の説教より　「平和、愛、恵み」　エフェソの信徒への手紙６：２１～２４、民数記６：２２～２７　　佐藤潤伝道師

この手紙全体を通して語られてきた救いは、結びの言葉にある「平和、愛、恵み」に端的に表されている。冒頭の挨拶では「恵みと平和」、結びでは「平和と恵み」と、順序を逆にして語られている。手紙全体が、神の恵みとキリストによって実現した平和に包み込まれている。この「恵みと平和」は、エフェソの教会に限らず、すべての教会に向けられた祈りであり、神の祝福である。恵みは、神の一方的な愛と選びによって与えられる救いの根拠である。平和は、キリストの十字架によって敵意が取り除かれ、神と和解し、互いに結ばれて一つの体である教会に生かされることにある。私たちは、この平和の内に教会の一致を保ち、救いの完成の日まで聖霊の助けを求めて、悪の誘惑に立ち向かいつつ、すでに与えられている「恵みと平和」を具体的に証ししていく。

その歩みは、自分の力や正しさに頼るものではない。神の救いを受け入れ、感謝と喜びをもって生きる信仰生活にある。「キリストの香りに生き」「光の子として歩む」私たちの姿を通して、神ご自身がこの世に栄光を現してくださる。私たち自身の力による行いが神の栄光を現すのではなく、神の恵みに生かされ、感謝し、喜んで歩む姿を通して、神の栄光が証しされる。

パウロは、ティキコを遣わし、自らの獄中での苦しみや状況を伝えることで、エフェソの教会に連なる人々を励まそうとした。その励ましは、今日の教会に集う私たちにも向けられている。

そして、最後に語られる「愛」とは、愛する力も信じる力も弱い私たちに、キリストの十字架の死によって示された「信仰を伴う愛」、神の賜物である。私たちが主を愛そうとする前に、主は今も変わることなく私たちを愛してくださり、互いに愛し合って生きる者へと変えてくださっている。この愛に生かされた者だけが、その愛に応えて主を変わることなく愛し続けていく。